

【授業の到達目標および概要】

行動科学理論・モデルの理解、介入研究の計画方法と留意点等、栄養教育・食教育研究に必要な基礎的事項を修得し、栄養教育・食教育の介入研究計画が立案できるようになる。

【授業計画】

- ①② 行動科学理論・モデルの基本と栄養・食教育研究への応用（個人の行動変容、個人間の関係、組織・社会の変容に関する理論・モデルの学習と、健康教育・ヘルスプロモーションの理論・モデルを栄養・食分野の研究に応用する際の留意点等）
- ③④ 栄養・食教育介入の研究計画の基本（目的・目標設定と評価指標の関係、評価デザインの設計、プロセス評価と影響・結果評価、等）
- ⑤⑥ CONSORT 声明（臨床試験報告に関する国際基準）を参考に、栄養・食環境介入の先行事例の論文（英文・和文）を批判的に読む（理論枠組み、研究デザイン、介入プログラム、評価方法と指標などについて各論文の強みと限界を理解）
- ⑦⑧ まとめ

【授業外学習】

授業時に指示する関連の先行文献・資料を読み、授業の予習・復習を行うこと。

学習内容を、自分の研究課題とつなげ、どのように活用できるかを考え、理解を深めること。

【成績評価の方法・基準】

授業中の参加状況(発言など) (20%) と、レポート (80%) で総合的に評価。

【教科書】

なし、資料を配布

【参考書】

- ・ Contento, IR: Nutrition Education: Linking Research, Theory, and Practice, 2007. Jones and Bartlett Publishers. Sudbury.
- ・ Glanz, K, Rimer, BK, and Lewis FM: Health Behavior and Health Education: Theory, Research, and Practice. 2002. Jossey-Bass. San Francisco.
- ・ 中山健夫、津谷喜一郎編著：臨床研究と疫学研究のための国際ルール集、2008. ライフサイエンス出版

【教材】

授業時に配布